

## 【集団健診】

## 1 第3期特定健康診査・特定保健指導の対応

平成20年度から始まった特定健康診査・特定保健指導が、平成30年度から第3期を迎え大幅な改正が行われました。

主な改正内容として、糖尿病性腎症の重症化予防を推進するために、詳細な健診の項目に血清クレアチニン検査が追加されました。

また、詳細な健診の項目である心電図検査と眼底検査の対象基準が変更され、前年度の健診結果から当該年度の健診結果で選定するように変更されました。

基本的な項目では、標準的な質問票において、歯科口腔の保健指導につなげるために「咀嚼」についての項目が追加されたほか、検査項目等でも血中脂質検査、血糖検査においても一部が改正されました。

特定保健指導においては、実績評価時期を6ヶ月経過後から3ヶ月経過後でも可能にする等、実施率を向上するために運用ルールが大幅に緩和されました。

## 第3期特定健康診査・特定保健指導の主な改正内容

区分	検査名称等	現行内容	改正内容		
			ポイント	詳細	
特定健康診査	基本的な項目	標準的な質問票 (22項目)	内容変更	「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか」	
		「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある」		「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか」	
		血中脂質検査	項目追加	LDLコレステロール 又は non-HDLコレステロール	
	血糖検査	空腹時血糖又はHbA1c 空腹時血糖又はHbA1c、やむを得ない場合は随時血糖 (食後3.5時間以上経過、10時間未満)			
	詳細な健診の項目	心電図検査	前年度の健診結果等において、 血圧、脂質、血糖、肥満(腹囲) の全ての項目について一定の 基準に該当した者	選定基準 の見直し	当該年度の健診結果等において、血圧が受診勧奨判定値又は 問診等で不整脈が疑われる者
		眼底検査			当該年度の健診結果等において、血圧又は血糖に掲げる項目が 受診勧奨判定値に該当した者
		血清クレアチニン検査	(実施なし)	新規項目	当該年度の健診結果等において、血圧又は血糖に掲げる項目が 保健指導判定値に該当した者
特定保健指導	行動計画の実績評価時期	初回面接日から6ヶ月経過後	内容緩和	初回面接日から3ヶ月経過後でも可	
	健診当日の初回面接 (分割実施)	特定健診の結果及び生活習慣等 の問診の結果が必要		健診当日に全ての検査結果が判明しない場合でも、初回面接を 分割して実施することが可能	
	2年連続で積極的支援に該当 した者への保健指導	(記載なし)		2年連続して積極的支援に該当した対象者のうち、1年目に比べ2年目の状態が改善 している場合、2年目の保健指導は動機付け支援相当の内容でも可能	
	モデル実施	(記載なし)		積極的支援対象者に対する3ヶ月以上の継続的な支援におけるポイントの在り方や、 生活習慣の改善効果を得るための目安となる新たな指標等を検証するために柔軟な 運用による特定保健指導のモデル実施が可能	

## 2 眼底画像レポートシステムを整備しました。

平成30年度から眼底画像レポートシステムを整備しました。

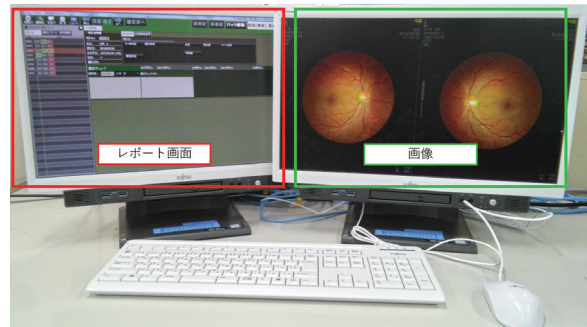
これまでは、判定の際に医師が読影表に所見を記入し、看護師による確認、情報システムへの入力作業、作業データの確認を経て結果書の出力を行っていたため、多くの時間を費やしていました。

眼底画像レポートシステムの導入により医師が所見入力を行うことになり、画像と入力画面が連動しているため、正確性が向上しました。また、入力画面に問診情報が表示されるため、読影時の参照が容易になりました。

看護師による確認作業でも、所見と画像を1度に画面上で見られるので、作業効率が上がりました。また、所見以外にも医師コメントの入力があり、画像の見方について学ぶこともできます。

情報システムへの入力作業は、画面上ボタン1つで行えるようになり、作業データの確認も不要になりました。

これらにより、読影の正確性の向上と処理にかかる業務が効率化され、結果処理の時間が短縮されました。



## 3 新しい検診車が仲間入り

### ◆胃肺併用検診車の整備（あすなる2号）

1台の検診車に胃の撮影装置と胸部の撮影装置をそれぞれ1台ずつ搭載した併用検診車を整備しました。

健診のスタイルに合わせて撮影装置の切り替えができるので、今後色々な健診での活躍が期待されます。

また、胃の撮影装置にはFPD（フラットパネルディテクタ）を採用しており、これまでのデジタル胃検診車の撮影装置よりも画質が向上し、放射線量も低減しました。

### ◆胸部検診車の整備（あおば1号、あおば14号）

昨年に引き続き、蓄電池搭載の胸部検診車を2台整備しました。

検診中に必要な電力を蓄電池から供給しており、発電機による排気ガスが出ないため環境にやさしく、また騒音もありません。

うち1台は車いすのまま乗降が可能なりフトが付いており、移動に車いすを利用されている方が多い特別支援学校や老人介護施設での検診に活躍します。



【あすなる2号】



【あおば14号】

## 4 スタッフのユニフォームを変更しました

今まで健診に従事する技術スタッフは白衣を着用していましたが、安心感や親しみ易い印象を与え、受診者様により良い環境で健康診断を受けていただきたく、平成30年4月よりユニフォームを明るい色彩のスクラブに変更しました。

白衣に比べて動きやすく、時代に即したスクラブの着用は、スタッフから好評を得ています。



## 【地域保健】

### 1 コールセンターを利用した集団健診申込受付を開始しました

自治体における、従来の集団健診申込方法である電話申込や窓口対応のほか、インターネットを利用した申込方式を平成25年度から提供しておりますが、この度、県内の専門業者と連携しながら、集団健診の電話予約受付業務を当事業団が代行する事業の提供を開始しました。

専用電話回線のコールセンターを期間限定で開設し、研修を受けた専門のオペレーターが電話による予約受付を行います。集団健診における受診者の利便性向上及び自治体の事務作業軽減につながる事業として、今後、多くの市町にご活用いただけるようご提案させていただきます。



### 2 高齢者に向けた運動機能等測定を開始しました

近年高齢化が進む日本で、75歳以上の後期高齢者（若年後期高齢者含む）が要介護状態となる原因に、軽度認知障害や転倒、サルコペニア（\*1）が挙げられており、フレイル（\*2）に陥る前の予防が重要視されています。

そこで、当事業団ではこれらの課題に向けた“高齢者の生活習慣の見直し、早期改善に繋がる事業”として運動機能等測定（\*3\*4）を独自に考案し新たに開始いたしました。

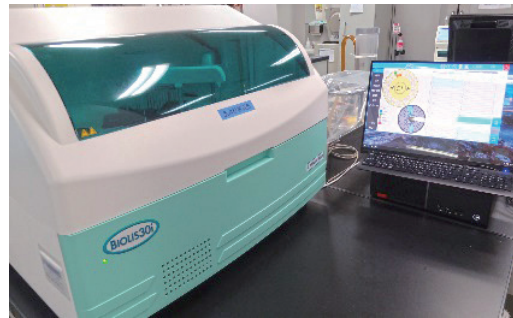
- \* 1 加齢や疾患により筋肉量が減少すること
- \* 2 健全な状態と要介護状態（日常生活でサポートが必要な状態）の中間の状態
- \* 3 運動機能等測定の項目
  - ① ふくらはぎ周囲径（低栄養状態の評価）
  - ② 握力（総合的な筋力の評価）
  - ③ 5m通常歩行（身体機能と日常動作の指標）
- \* 4 評価基準
  - ① ふくらはぎ周囲径  
国立長寿医療研究センターが作成したサルコペニアの簡易基準に含まれる下腿囲の基準30cm未満を使用。
  - ② 握力 ③ 5m通常歩行  
旧 東京都老人総合研究所が作成した“おたっしゅ 21体力測定”を使用。  
東京都健康長寿医療センター（旧 東京都老人総合研究所）が地域在住の高齢者5千人を超えるデータから作成した体力測定。



## 【学域保健】

### 1 尿検査機器を更新しました

平成30年度より腎臓検診をはじめとする学校検尿の分析装置を更新しました。従来の装置では、採尿容器に貼られたバーコードを検査担当者がバーコードリーダーで読み取る作業が必要でした。今回導入した新しい装置では、自動で専用容器のバーコードが読みとられるため、検査の効率及び精度が向上しました。また、尿蛋白を定量測定する装置も導入したためデータの信頼性がさらに向上しました。



## 【人間ドック】

### 1 胃内視鏡装置を更新しました

更新機種はFUJIFILM社製のLASEREO（レザリオ）7000システムです。

この装置は、波長の異なる2種類のレーザー光の発光比率を変えることにより粘膜表面の微細な血管や構造を強調して表示する機能や、画像の赤色領域のわずかな色の違いを強調し表示する画像処理機能を兼ね備えており、より精度の高い検査が期待できます。

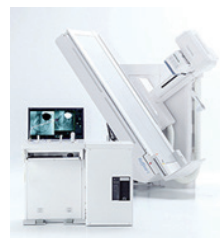


## 2 X線検査装置を更新しました

検査精度の維持・向上を目的とし、胃X線撮影装置3台、胸部X線撮影装置1台、X線骨密度測定装置1台を更新しました。高画質・低線量はもとより、検査の安全性や受診者への検査環境に配慮したものとなりました。

### 胃X線撮影装置：キヤノンメディカル「Raffine-i」

逆傾斜時の安全性が重視されたものであり、逆傾斜を $-30^{\circ}$ で止め深い角度付けを防止する機能を備え、体を支える力が弱い方などの事故防止につながります。さらに、寝台に自動肩あてを装備したことで肩当てが密着し、より安心して検査を受けていただけるようになりました。また、コンパクトなデザインで装置の圧迫感が軽減されました。



【Raffine-i】

### 胸部X線撮影装置：FUJIFILM「CALNEO Smart C77」

コンパクトな撮影部で車いす等での座位撮影もよりスムーズにでき、小柄な方でも抱えやすいものとなりました。また、手になじみやすい曲線形状のつかまり棒で受診者に優しく、より快適に検査を受けていただけるようになりました。



【CALNEO Smart C77】

### X線骨密度測定装置：日立製作所「ALPHYS A」

コンパクトなデザインで足元のスペースが十分に確保され、無理のない姿勢で容易に測定することができるようになりました。また、重力と3支点（グリップ・突き当て・肘当て）で無理なく前腕を支える独自の設計で、ストレスのない自然な姿勢で測定することができます。



【ALPHYS A】

## 3 肺年齢測定器を導入しました

健診後の保健指導時に実施している禁煙指導において、効果的なツールとして肺年齢測定器（ハイ・チェッカー）を導入しました。

この機器は、息を吹き込むだけで肺の年齢を手軽に分析することができます。

肺年齢はCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の発見における1つの目安とされており、実年齢と肺年齢があまりにかけ離れている場合は何らかの肺疾患が疑われ、COPDの早期発見に役立ちます。



## 【精度管理】

### 1 情報漏洩対策システム「SKYSEA」を導入しました。

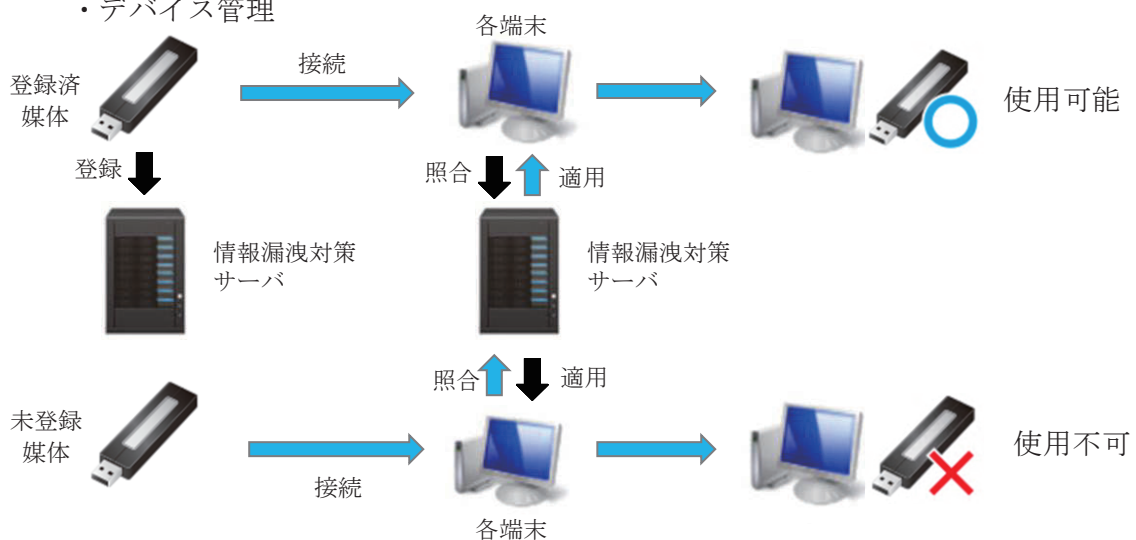
情報漏洩対策システムは、電算システムにおける個人情報保護対策レベルの向上を図ることを目的として導入しました。

「デバイス管理」機能は、これまでも適正に外部記憶媒体（USBメモリ・外付HDD・CDドライブ等）を運用していましたが、システム導入により、不適切な運用や不正なデータ持出を防ぐなど、より厳重に管理することが可能になりました。

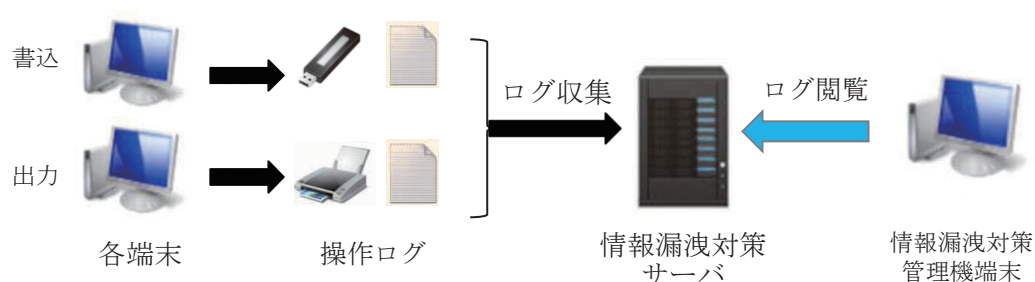
また、これまでも業務システムの操作ログは各システム内で適正に管理・運用されていましたが、それ以外の文書作成や表計算ソフトなどの操作（特にファイル書込やプリンター出力を重視）は、直接端末の確認が必要でしたが、「操作ログ管理」機能により容易に操作ログの確認が行えるようになったことから、情報漏洩時などにおける原因（端末や操作者）の特定が迅速に行えるようになりました。

#### 【各機能について】

##### ・デバイス管理



##### ・操作ログ管理



## 【普及啓発】

### 1 複十字シール運動・がん征圧街頭キャンペーンの実施

「複十字シール運動キャンペーン」を栃木県結核予防婦人連絡協議会と共催で宇都宮市のベルモールにて実施しました。また、「がん征圧街頭キャンペーン」を同市のオリオン通りにて実施しました。

結核やがんに関する正しい知識の普及と予防意識の高揚を図るためリーフレットやグッズの配布、パネルの展示や募金活動等を行いました。



平成30年9月29日（土）  
ベルモール2Fスカイブリッジ広場



平成30年10月13日（土）  
オリオン通り東武宇都宮駅前側アーケード

### 2 がん検診啓発セミナーの開催

がんに関する知識の普及とがん検診の受診率向上を図ることを目的として県内を巡回して行う「がん検診啓発セミナー」を平成30年9月15日（日）、黒磯文化会館大ホールにて那須塩原市と共催し、約200名の方が参加しました。

乳がん検診や精密検査受診の重要性について理解を深めていただくための基調講演（当事業団乳がん検診部長 阿部聡子先生）と特別講演（麻木久仁子氏）を行ったほか、ロビーに設置した展示ブースでは、がん征圧募金の呼びかけや乳がん触診モデルによる自己触診啓発、マンモグラフィや超音波の検査画像を用いた所見の説明等を実施し、多くの方々に乳がんに関する知識の普及啓発を行いました。



### 3 干支とちまるくん苺ピンクリボンピンバッジ・ストラップの作製

がん征圧運動の一環として実施している「がん征圧募金運動」の募金に対する記念品として、戌年にちなんだ干支とちまるくん苺ピンクリボンピンバッジ・ストラップを作製しました。

このバッジやストラップを、がん征圧募金にご協力いただいた方に500円の募金を目安に1つお渡ししました。



とちまるくん承認  
第300013号・300014号